

# 迎



# 春



明けましておめでとうございます。  
 本年も「広報とき」をよろしく申し上げます。  
 皆さんは、今年をどんな年にしたいとお考えでしょうか。  
 今年一年が、皆さんにとって良い年となりますように。

二〇〇四年 年頭所感

## 東濃新時代の幕開けを迎えて

土岐市長 塚本保夫



明けましておめでとうございます。  
 厳しい経済情勢の中で新年を迎えましたが、新しい年が新たな発展のスタートラインとなることを願ってやみません。

本市は、歴史的に陶磁器産業を基軸として産業の振興を図ってまいりましたが、東西冷戦の終結に伴う経済のグローバル化の中で、中国製品などの安価な輸入商品に圧迫され、極めて厳しい状況に直面いたしました。

このような事態に対応するために、本市では予て地場産業の振興を基軸とする中で、他産業の導入も視野に入れて、産業構造の高度複合化を図り、若年雇用の機会拡大を推進して、地域の産業活性化を図ってまいりました。

幸い、東濃研究学園都市構想が着実に進展し、今や伝統的な窯業土石関係以外の新規企業の製造品出荷額は全体の三分の一を超えるまでとなり、地場産業の低迷をカバーして、本市の製造品出荷額は不況下でありながら、着実に増加に転じてまいりました。これは、産業構造の高度複合化進展の結果であり、雇用の拡大にもつながると存じます。

資源の乏しい我が国の進むべき道は、科学技術創造立国または知的財産権立国であります。

そうした中で、二十一世紀最初の万国博覧会「愛・地球博」の開幕に合わせて開通いたします東海環状

自動車道と、時を同じくして街開きの行われぬ土岐プラズマ・リサーチパーク、就中、今や時代の寵児とも言うべき「プレミアムアウトレットモール」の進出が予定されており、年間三百万人に達する人々が、中部圏各地から土岐へ来訪されます。

国内観光の経済効果が、今や二十兆円に達し、国内総生産（GDP）の4%を占めるほどに国民経済の重要な位置を占めるに至っておりますが、これを各々の地域がいかに自分のものにするかが、これからの重大事でありませぬ。

年間三百万人も集客が見込まれるアウトレットモールでは、世界的なブランド店の出店が八十店舗新規の雇用が九百人ぐらいは期待できるといわれております。

さらに、新時代の先端産業の導入を図り、若人の雇用機会の拡大を図りながら、若者に生き甲斐を与え、高齢者が安心できる地域づくりのために、全身全霊を捧げたいと存じます。

そこで、皆様とともに真剣に考えたいことは、千三百有余年の歴史と伝統を誇る美濃焼産業の貴重な蓄積を資源として「産業観光」を活性化させ、やきものの聖地・土岐をテーマとした観光ルートを開発して、新時代の交流大地・土岐を実現したいと考えております。

幸いにして、国・県のご理解とご協力によりまし



二〇〇四年 年頭所感

# 住民意向調査に投票を

土岐市議会議長 久米要次



新年明けましておめでとう  
ございます。

市民の皆様には、お健やかに  
初春をお迎えのこととお慶  
び申し上げます。

景気の低迷が続いておりま  
すが、地場産業の空洞化など  
により、地域経済は大変厳し  
い状況にあります。一日も早  
い景気の回復を願っているこ  
ろであります。昨年は記録

て、国指定史蹟「久尻元屋敷陶器窯跡」は、「織部の里」として見事によりみがえり、由緒ある茶室「雪庵」の移築も着実に進ちよくしており、文字通り、我が国の「茶の文化」と茶陶のメッカとしての地位は不動のものとなりました。

また、美濃陶芸村と美濃焼伝統産業会館を中心とする「志野の里」、セラテックノ土岐と隣接する「どんぶり会館」、美濃焼卸センターに隣接する「志野・織部」、民間活力による「すりばち館」や「とっくりの里」等々と産業観光の基盤は整いつつあり、土岐市駅のエスカレーター設置など、バリアフリー対策も着実に前進しつつあります。

濃南地域活性化のための「クアハウス曾木」の建設も本格化し、土岐市駅周辺の市街地再生計画も具  
体化の時を迎えております。

時<sup>あた</sup>かも、東濃西部三市一町の広域合併の話し合いも正念場を迎えており、住民主体の合併実現のため  
来る一月二十五日には、合併に関する住民意向調査  
を投票方式で実施することになり、市民各位の積極  
的なご投票に期待し、未永い地域の発展と市民各位  
のご多幸とご清福を願ひ、その方向性を皆様の意志  
で決したいと存じます。

新しい年が良い年であることを祈ります。

的な冷夏により、農業をはじめ  
めいろいな産業に大きな打  
撃を与えました。地球温暖化  
が原因の一つといわれており  
ますが、環境問題が大変懸念  
されるところであります。

ところで、本市議会は「市民の  
民の声の重み」を受けて、昨  
年の三月に自主解散をいたし  
ました。そして、厳しい選挙  
を通じて、市民の皆様の信託

をいただいたところでござい  
ます。このことを重く受け止  
め、市政発展と市民福祉の向  
上のために、さらに努力して  
まいりたい存じます。

さて、東濃西部三市一町の  
合併問題も大詰めを迎えまし  
たが、本市議会では、合併問  
題特別委員会を開催して真剣  
に議論を重ね、本市にとって  
望ましい合併を求めて合併協

議に臨んでまいりました。東  
濃西部合併協議会主催の住民  
説明会などで、市民の皆様か  
ら議会に対していただきまし  
た多くのご意見は、真摯に受  
け止めているところでござい  
ます。

いよいよ、来る一月二十五  
日の日曜日には、合併の是非  
について投票方式による住民  
意向調査が実施されます。こ  
の調査は、本市の将来を決め  
る重要な調査であります。ど  
うか市民の皆様におかれまし  
ては、ごぞつて投票にお出が  
けいただけますよう、お願い

申し上げます。

地域のことは地域が主体的  
に決めるという分権社会を迎  
えて、住民と行政の協働によ  
る地域社会の創出が求められ  
ておりますが、身近な住民代  
表の府として、議会の役割は  
ますます高まるものと思いま  
すので、一層のご理解とご協  
力を賜りますよう、お願い申  
し上げます。

年頭に当たり、市民の皆様  
方のご多幸をお祈り申し上げ  
ますとともに、本市の発展を  
心から念じながら、ごあいさ  
つといたします。